平成２０年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成20年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1. 資料収集…… 2

(1) 新規収集資料

2. 資料保存管理…… 2

(1) 収蔵資料

(2) 所蔵図書

Ⅱ　調査研究事業

1. 調査研究…… 4

(1) 餓鬼岳周辺におけるライチョウの生息状況

(2) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究

(3) 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁登山史調査

(4) 登山史に関する研究

(5) 爺ヶ岳登山における大町第一中学校生徒がからだに受ける影響

Ⅲ　教育普及事業

1. 展示…… 6

(1) 常設展示

(2) 企画展示

(3) 特別展示

(4) 移動展示

2. 教育活動…… 9

(1) おもしろ山博ミニゼミ

(2) 研究会

(3) 学習会・講座等の開催

(4) 学校との連携、融合

(5) 学芸員実習の受入

(6) 各種観察会・学習会への協力

(7) テレビ、ラジオへの出演

(8) 収蔵資料などの貸出

3．執筆・出版…… 17

(1) 執筆

(2) 出版

4．インターネット・ウェブサイト…… 20

(1) 公式ウェブサイト

(2) 安曇野アートラインウェブサイト

5．広報…… 21

6．友の会…… 21

(1) 組織

(2) 運営部

(3) 編集部

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

(5) サークル活動

7．ライチョウ会議…… 23

(1) ライチョウ会議

(2) 第9回ライチョウ会議新潟大会

8．ボランティア活動…… 23

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖…… 24

(1) 飼育動物

(2) 傷病鳥獣保護

2. 植物栽培繁殖…… 25

(1) 栽培植物

Ⅴ　その他

1. 各種委員などの委嘱…… 26

2. アルペン動物園との友好提携協定の締結…… 26

3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 26

Ⅵ　運営

1. 組織および職員構成…… 27

2. 協議会…… 27

3. 入館者状況…… 28

4. 平成18年度予算・決算…… 30

Ⅷ　関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例…… 31

2. 市立大町山岳博物館規則…… 33

3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 35

Ⅸ　施設

1. 敷地面積…… 36

2. 本館建物…… 36

3. 付属施設…… 36

4. 本館平面図…… 37

5. 付属園の建物図…… 38

Ⅹ　利用案内…… 38

平成 20 年度の活動から

館 長　柳澤 昭夫

平成 20 年 7 月 5 日から 8 月 31 日にかけて「カブトムシとクワガタムシ - 里山の甲虫たちの未来は？」の企画展を開催した。市内の小学生と協働で取組んだ生態調査の成果を活用すると共に、長野県自然保護研究所の協力を得て、里山の荒廃が指摘される近年、身近かな自然について考える事ができた。

9 月 1 3 日から 11 月 3 日まで第 6 回日本山岳画協会大町展を開催した。近年、山岳画や山岳写真に関心が高く、多数の来館者があった。

餓鬼岳周辺を中心に「ライチョウ」の生息状況調査を行った。抱卵中のメス 1 羽を確認した。餓鬼岳のような山脈の端では、生息環境が悪くなってきているかもしれない。

昭和初期に行われた鹿島槍ヶ岳北壁、荒沢奥壁の初登攀について検証するため、4 月、8 月、3 月と鹿島槍ヶ岳荒沢とカクネ里に入り、現地調査を行った。昭和初期の旧制大学、高校の山岳部員は、粗末な装備で、ビヴァークを重ねて、この険峻な谷へ入り、今でも難しい、荒沢奥壁や北壁を登攀した。世界の登山史に残る偉業である。引き続き、荒沢奥壁、北壁調査を重ねるともに、数年かけて、五龍岳、不帰および白馬三山の調査を進め登山史の充実に努めることとしたい。

地球温暖化については、早急に判断できないようであるが、今年も里の雪は少なかった。南アルプスでは鹿による高山植物の食害が進んでいると聞く。鹿が増えたようであるが、大雪の冬があると、この鹿も激減するとも言われている。高山の植物環境、動物環境、積雪、気象環境については、短いスパンで考えることは出来ないが、些細なデーターであっても、長年にわたって集積して役立てることが出来る。次年度からデーターロガを設置して基礎的な資料を集積したい。

山岳博物館は、フィールド活動を充実し、後立山の自然と登山をテーマした特色ある博物館つくりに努めたい。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1．資料収集

(1) 新規収集資料

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日の間、寄贈によって次の資料を収蔵した。

受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住所
4 月 1 日	ピッケル	1 点	個人	岡山県赤常磐市
4 月 15 日	ピッケル、輪かんじき	2 点	個人	京都府
5 月 17 日	植物スライド	2,510 点	個人	長野県大町市
6 月 25 日	ピッケル	1 点	個人	長野県大町市
9 月 10 日	ピッケル	1 点	個人	東京都世田谷区
9 月 27 日	写真、書籍	4 組	個人	三重県鈴鹿市
11 月 22 日	ピッケル	2 点	個人	京都府左京区
2 月 25 日	登山靴、金剛杖	1 点	個人	長野県大町市

2．資料保存管理

(1) 収蔵資料

分類名および点数		分類名および点数	
自然科学系　　合計　11,418 点		人文科学系　　合計　5,411 点	
菌類(液浸標本)	129 点	山岳	3,580 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	美術	189 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	民俗	928 点
維管束植物(さく葉標本)	＊6,000 点	歴史	49 点
魚類(液浸標本)	62 点	考古	158 点
両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	寄託(山岳、美術)	507 点
貝・甲殻類(液浸標本)	13 点	(寄託内訳)	
哺乳類(剥製・骨格標本)	226 点	個人寄託　250 点	
鳥類(剥製標本)	619 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係)　93 点	
昆虫(標本ドイツ箱)	166 点	団体寄託　164 点	
昆虫(未標本作製資料)	＊1,000 点		
昆虫(液浸標本)	27 点		
その他液浸標本(調査研究資料)	103 点		
岩石・化石	＊2, 320 点		

①収蔵資料の点数

総計 16, 829 点（平成 21 年 3 月 31 日現在）

※　これらの資料点数については概数である。

②現状と課題

積極的な資料の収集計画、予算処置が明確にされておらず、現状として先方からの寄贈・寄託申し出に依存している。

a．自然科学系

動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されているが、昆虫（ガ類の展翅標本については採集者による同定を終えた）・地質資料等については未整理である。

b．人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として、受付台帳をもとにした収蔵資料目録の作成・刊行を目指す。

ｃ．管理保存

資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を実施（今年度は展示室８回、収蔵スペース６回実施）。現在、資料の保存環境は好ましくない。ＩＰＭ(Integrated Pest Management)＝総合的有害生物管理に移行させるため、館内への有害昆虫類・塵などの侵入対策として、一部館入口扉の改良工事を今年度計画していたが、建物の耐震診断の結果をみてからの施行なり延期となった。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が急務である。

(2) 所蔵図書

①所蔵図書の点数

4,319 冊（平成 21 年 3 月 31 日現在）

②現状と課題

書籍保管のスペースが足りなくなってきており、新たなスペースを確保することが急務である。そのため、これまで雑誌や会報等まで書籍登録していたが、今年度からは書籍のみを登録し、整理することにした。登録書籍数が前年度よりも減少しているのはそのためである。

Ⅱ　調査研究事業

1．調査研究

(1) 餓鬼岳周辺におけるライチョウの生息状況（担当：宮野）

平成 20 年 2 月の長野県希少野生動植物保護対策委員会脊椎動物専門小委員会でライチョウの生息状況の悪化が危惧される地域として独立峰や山脈の末端が指摘された。大町市内では餓鬼岳がこれに該当する上､昭和 59 年に発表された信州大学の羽田健三教授によると当該地域に３個の基準ナワバリが推測されている。その後、現地での調査がなされていないため生息状況を把握する必要があると考え、唐沢岳・餓鬼岳・東沢岳周辺の調査を行った。調査時期は 6 月 28 日～7 月 1 日の 4 日間で、餓鬼岳小屋南側で抱卵中のメス 1 羽の個体を確認した。また、生息が推定できる砂浴び跡等を発見したがメスの抱卵糞以外新しい小腸糞が発見でず、抱卵行為は確認できたものの、個体群を形成するオスの姿や鳴き声は確認できなかった。今後、調査を進め、当該地域のライチョウ生息状況の特性を解明する必要がある。

(2) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究（担当：千葉）

12 月に湿地植物の生活史を観察するため､観察員を一般募集したところ 5 名の応募があった。1 月から「勉強会」を開催し、3 月からは現地において観察や研究に取り掛かった。

対象植物は、ミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、カキツバタ、コオニユリ、クサレダマ、ミソハギ、サワギキョウ、アカバナ、ミズオトギリとした。

(3) 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁登山史調査（担当：柳澤）

昭和初期に行われた鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁の初登攀について検証するため、大町山の会の協力をえて、4 月 23 日から 4 月 25 日に鹿島槍ヶ岳荒沢に入り、積雪雪崩の状況、地形、登攀ルート等について調査した。同様にして、8 月 13 日～15 日と 3 月 16 日～18 日の 2 回カクネ里に入り北壁の地形、雪崩、登攀ルート等について調査した。三回の入山調査は現場を検証し、成果を挙げることが出来た。

しかし、日程が限られる上、天候に左右されたので、十分とは言えず、まだまだ、入山調査が必要である。

(4) 登山史に関する研究（担当：柳澤）

登山史に関する研究会を設け、会を催した。

第 1 回会合

日　時：平成 20 年 4 月 20 日(日)　午後 1 時～午後 4 時 30 分

会　場：大町山岳博物館　講堂

内　容：大正時代から昭和 30 年代の北アルプス、とくに鹿島槍ヶ岳を中心とした登山史の基礎調査、検証を一年間かけて実施していくための調整作業を実施。博物館作成の細部計画、並びに関連文献を提示し基本知識を共有し以後の執筆作業に支障のないように務めた。

博物館側の主旨を述べ、斎藤一男よりこれに補足、課題を述べる形で、これまでの関連文献を総合した「(仮称) 後立山研究」の総合的な基本文献の作成を提起された。これに以外にも各大学の部報など関連する資料を統合した資料集の作成も要請された。

こうした認識のもと、ここで話し合われた方向性に沿って、今後の調査、執筆分担などの細部の取り決めを詰める。

参加者：斎藤一男、西本武志、砂田定夫、佐々木誉実、柳澤昭夫、清水隆寿

第 2 回会合

日　時：平成 21 年 1 月 29 日（木）　午後 1 時～午後 4 時

会　場：大町山岳博物館　講堂

内　容：第一回会合の主旨に沿って、原稿執筆が概ね終了した今回、博物館との細部の内容の確認作業を行った。用語の統一や注記の補足などの具体的な調整を行う。あわせて今後の日程の進め方などの打ち合わせを行う。一部、執筆内容に博物館との主旨に齟齬を感じる部分も存在したが、それも含め今後の課題とし、本文の訂正など今後の改訂部分を相互に確認した。

参加者　：　斎藤一男、砂田定夫、佐々木誉実、柳澤昭夫、清水隆寿

(5) 爺ヶ岳登山における大町第一中学校生徒がからだに受ける影響（担当：柳澤）

登山中、気圧の低下にともなって、身体は、酸素を摂り入れ難くなる。登山中動脈血の酸素飽和度はどのように変化するか調べてみた。平成 13 年に続き、本年 7 月に行われた、大町第一中学校の爺ヶ岳登山おいて、パルスオキシメーターを用いて、末梢動脈血の酸素飽和度（Spo2）とそのときの心拍数を測定した。

結果から見れば、たとえ、爺ヶ岳登山といえども、気圧の影響を受けて、呼吸と心臓の循環機能に大きな負担がかかっている。

Ⅲ　教育普及事業

1．展示

(1) 常設展示

①新規展示

a．新着資料展（担当：清水博文）

・時　期：平成 20 年 4 月 1 日（火）～12 月 9 日　・　12 月 10 日～平成 21 年 3 月 31 日

・場　所：2 階展示室

・概　要：平成 20 年 4 月 1 日～12 月 9 日　平成 19 年度に製作した白色のホンドタヌキ、トラツグミ、コルリなどの剥製計 4 点を展示。平成 20 年 12 月 10 日からは、平成 20 年度に作製したホンドテン、ハチクマの剥製計 2 点を展示。

・所　見：直ぐに常設展示に反映されない新規作成剥製などの資料を、入館者に見ていただける数少ない機会として、今後も継続的に実施していきたい。

b．ふぞくえんアニマルウォッチング（担当：飯島・岩本・上良）

・時　期：平成 20 年 6 月 28 日（土）～平成 21 年 3 月 31 日（火）

・場　所：2 階展示室

・概　要：時期によって展示内容に変更があるものの、随時付属園にて飼育している動物の写真を展示した。

・展示資料：写真 4～15 点

c．アルプス賛歌（担当：千葉）

・時　期：平成 21 年 2 月 10 日（火）～

・場　所：2 階展レクチャーホール

・概　要：博物館で毎日撮影している「北アルプスの風景」の月ごとにベスト３を選出し、写真（Ａ２判サイズ）および動画で鑑賞できるようにした。

・展示資料：博物舘オフィシャルホームページより

・所　見：季節や天候、光の加減により「北アルプス」の色々な表情を見てもらえた。

e．アルプス一万尺　山岳写真公募作品展　岳都大町をめぐる山々（担当:千葉）

・時　期：平成 20 年 6 月 29 日（火）～平成 21 年 2 月 8 日（日）

・場　所：2 階レクチャースペース

・概　要：6 月 12～29 日まで開催した企画展の入選作品 15 点を展示。

・所　見：山岳文化都市をＰＲするに打って付けの作品であり、多くの観覧者に見ていただけた。

f．高山植物の名前当てクイズ（担当:千葉）

・時　期：平成 20 年 7 月 31 日（木）～9 月 4 日（木）

・場　所：2 階レクチャースペースの隣 3 階への階段下

・概　要：夏山シーズンにあわせ、高山植物 50 種の名前を当てるゲーム形式のビデオを放映。

・所　見：50 種を見終わるまでに 10 分以上かかることから、多く扱いすぎた。ボタン等で正解を押したりできないため、飽きてしまうようであった。自作形式のビデオクイズには楽しませるには、限界があると思われた。

g．ニホンカモシカ　オタリ親仔の観察日記（担当:飯島・岩本・上良）

・時　期：平成 20 年 9 月 5 日（金）～

・場　所：2 階レクチャースペースの隣 3 階への階段下及び 3 階展望室

・概　要：付属園にて自然繁殖したニホンカモシカの成長を観察日記として公開した。

h. 先月の北アルプス　ベスト３（担当:千葉）

・時　期：平成 20 年 9 月 10 日（水）～

・場　所：3 階展望室

・概　要：　前月のベスト３を選出し、写真を公開。

・所　見：日によって変わる北アルプスの美しさ・険しさを見てもらえたと思う。

②展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,437 点（平成 21 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 814 点）

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
3F 展望室		1F　ホール・特別展示室	
「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	「山と芸術」コーナー	計 61 点
2F　第 2 展示室　※1		絵画　※2	21 点
「山岳の自然」コーナー	計 623 点	その他	19 点
北アルプスのかたち	24 点	ピッケル	21 点
北アルプスの生いたち	80 点	1F　第 1 展示室	
里山から高山までの生物	235 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの登山史	322 点
さわれる剥製	5 点	北アルプスの山小屋	46 点
渓谷の生物	35 点	登山の道具	152 点
湖の生物	60 点	遭難	57 点
湿原の生物	55 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
剥製ライブラリー	102 点	日本人の海外登山	108 点
パレットライブラリー	20 点	山のコラム	25 点

※1 一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

※2 絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

(2) 企画展示

①「雪形展 - 山麓の民俗 - 」（担当：宮野）

a. 会　期:平成 20 年 4 月 12 日（土）～6 月 8 日(日)　開催日数：51 日

b. 会　場：特別展示室・ホール

c. 概　要：白馬乗鞍岳から蝶ヶ岳に出現する伝承的な雪形を写真とイラストで紹介し、代かき車、手斧、万能鍬など雪形に登場する実物資料を展示。雪形をモチーフにした点描の酒井英次作品を展示。

d. 展示資料：雪形等の写真 12 点、農具、大工道具約 5 点、、絵画 18 点、DVD「あづみ野雪形ウォッチング」の上映（「あづみ野雪形研究会」制作）

e. 観覧者：3,505 人（有料 2,992 人、無料 513 人）

f. 所　見：雪形の現れる場所を地図上に示し、解説を加えたので、雪形の位置関係は理解いただけた。書籍で雪形に関する記述が多くなるのが戦後であり、それ以前の記載事例が少なく、今後も伝承の発祥や正確さの検証が必要である。

②「アルプス一万尺 - 岳都大町をめぐる山々 - 」（担当：千葉）

a. 会　期：平成 20 年 6 月 12 日(木)～29 日(木)　開催日数：16 日

b. 会　場：特別展示室・ホール

c. **概　要**：山岳文化都市宣言に基づき開催した展示。

d. **展示資料**：写真 28 点　メッセージ 19 点

e. **観覧者**：932 人（有料 690 人、無料 242 人）

f. **所　見**：1 年弱をかけてリーフレットやマスコミ、ホームページを通して広報を行ったが応募写真は 28 点と少なく､原因としてデジタルカメラによる写真応募ができなかったことが考えられた。作品には「山岳への想い」を添えていただき、それぞれが色々な想いを持って山を眺めていることが伺えた。

③**「動物写生画展」**（担当：清水隆寿）

a. **会　期**：平成 20 年 7 月 5 日(土)～13 日(月)　　開催日数：9 日

b. **会　場**：講堂（入場無料）

c. **概　要**：春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒が描いた博物館付属園内の動物や風景の絵画を展示。

d. **主な展示資料**：園児、児童・生徒による絵画全作品、127 点

e. **関連イベント**：

・春の動物写生大会（場所：付属園）　4 月 26 日（土）～5 月 6 日（日）
※開催期間中は「アニマルウォッチング～動物をもっと近くで見てみよう！～」を講堂で開催し、写真や解説文で動物の特徴を紹介し、3 日～5 日は「山博おもしろミニゼミ」として付属園の動物について実際に動物を見ながら解説した。

・写生画審査会（場所：講堂）　5 月 15 日（木）市内小中学校の先生を審査員として 23 点を選出し、中央審査へ出品。博物館職員の審査による特別賞を 9 点選出。

・中部ブロック写生コンクール　6 月 8 日（日）
（主催：日本動物園水族館協会中部ブロック、場所：名古屋市東山総合公園）

・写生画表彰式（場所：講堂）　7 月 13 日（月）

f. **所　見**：地域の子供向けの企画展。絵画作品のほかに、付属園で飼育中の動物や付属園の役割などについて写真・説明パネルによって紹介した。これにより、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や野生動物の救護活動について市民などに広く知る機会となった。

④**カブトムシとクワガタムシ - 里山の甲虫たちの未来は？ -**（担当：清水博文）

a. **会　期**：平成 20 年 7 月 5 日（土）～8 月 31 日（日）　　開催日数：58 日

b. **会　場**：特別展示室・ホール

c. **概　要**：最も親しみのある昆虫の一つであるカブトムシ・クワガタムシを材料とし、大町市民（市内全校の小学生たち）との協働で取組んだ生態調査を通し、人の暮らしの変化と自然環境の変化などとの係わりについてを考える展示。

d. **展示資料**：調査結果などはパネルや調査用具を用い紹介。甲虫標本 191 種、910 点。生き虫（大町市に生息する甲虫 8 種、外国産カブト・クワガタ 6 種）も展示。

e. **入館者**：6,492 人（有料 5,817 人、無料 675 人）

f. **所　見**：里山の荒廃や外来生物の問題なども扱い、身近な自然環境の維持についての関心を深めていただけたことと思う。市内小学校全校との協働調査を展示に展開させたことにより、市民の方々にとって博物館がより身近なものであると感じてもらえたことと思う。

g. **関連イベント**：

「夏休み昆虫相談コーナー」を会期中の 7 月 26･27 日、8 月 1･2･5･6･7･9･10・11･12･14･15･16･17･20･21･22･24･26･27･28･30 日に開催し、合計 166 の家族などに夏休みの自由研究のヒントや、昆虫採集、飼育、標本作製方法、生態・分布などについての疑問について解説を行った。

「カブトムシ・クワガタムシの森づくり」（講演会と野外実習）を 7 月 30 日に開催した。講師に前河正昭（長野県環境保全研究所研究員）に招き、6 人が参加して里山の甲虫の生息環境を作り出すことを目的とした森林環境整備についての話、実際に博物館周辺で甲虫の採集とマーキング調査を行った。

⑤キノコ展（担当：千葉）

a. 会　期：平成 20 年 9 月 27 日（土）～28 日（日）　開催日数：2 日

b. 会　場：講堂（入場無料）

c. 概　要：パネルを用いてキノコの正体の紹介および今年採れた生のキノコの展示。

d. 関連イベント：キノコ学習会

e. 展示協力者：飯島八郎・清沢由之・高野哲哉・山岳博物館友の会（敬称略）

f. 所　見：今年は 184 種のキノコを展示することができた。

⑥ピッケルの輝き　収蔵資料展（担当：清水隆寿）

a. 会　期:平成 21 年 1 月 17 日（土）～3 月 8 日(日)　開催日数：43 日

b. 会　場：特別展示室・ホール

c. 概　要：故平柳一郎氏が収集したスイスと日本の古典的なウッドシャフトのピッケルを中心に当館所蔵ピッケルを合わせ展示した。初期にみられた伝統的な鳶口や金剛杖、地元で製作された至誠ピッケルのほか、参考展示として現代のピッケルのほか登攀道具と登攀技術の変遷についてピッケルの形態変化に関連をもたせて展示した。

d. 展示資料：鳶口・野かじによる私製ピッケル等約 70 点を製作年代順に展示した。また、日本を代表する山内製作のアイゼンなども展示した。

e. 入館者：924 人（有料 773 人、無料 151 人）

f. 所　見：収蔵資料展の意味合いが強い展示であったが、平柳氏より寄託されていた資料の全体像を今回公開できた意味は大きい。

(3) 特別展示

①第 6 回日本山岳画協会大町展（担当：清水隆寿）

a. 会　期:平成 20 年 9 月 13 日（土）～11 月 3 日(月・祝日)　開催日数：

b. 会　場：特別展示室・ホール

c. 概　要：「好んで山を描く画家の集団」日本山岳画協会による絵画を展示。

d. 展示資料：16 人の会員が描いた油彩など山岳風景の絵画 33 点を展示。

岩切岑泰「渓谷の村」（Ｐ100・油彩）「ドロミテ風景」（M30・油彩）
上田太郎「西穂より焼岳乗鞍を望む」（Ｆ60・油彩）「伊藤新道より槍ヶ岳」（Ｓ20・油彩）
江村真一「山湖」（Ｆ100・油彩）「晩夏雲の平」（Ｆ30・油彩）
小高民江「梓川」（Ｐ60・水彩）「雪どけ」（Ｐ20・水彩）
熊谷榧「独標から西穂高岳」（Ｆ50・油彩）「残雪の笠ヶ岳」（Ｆ30・油彩）
後藤三男「北アルプス冠雪」（Ｆ30・油彩）「妙高高原の秋」（Ｆ30・油彩）
須藤卓男「雲上の槍ヶ岳」（Ｆ80・油彩）「山並」（Ｆ30・油彩）
高橋てる子「双六岳のお花畑」（Ｆ20・油彩）「大出原のお花畑」
田中泰道「ランタンリルン曙光」（Ｆ100・油彩）「明けゆく刻-ｴﾍﾞﾚｽﾄとﾛｰﾂｪ－」（Ｆ20・油彩）
千葉潔「流れと穂高・春」（Ｆ80・油彩）「槍ヶ岳（モルゲンロート）」（Ｐ30・油彩）
中村勝久「北穂高」（Ｆ30・油彩）「新雪爺ヶ岳」（Ｆ30・油彩）
藤田錦一「Beautiful Day」（Ｆ50・油彩）「光射す一ノ倉沢」（Ｆ20・油彩）
牧潤一「エベレスト山」（Ｐ30・油彩）「湖上のヒマラヤ」（Ｐ30・油彩）「イタリア側から見

たモンブラン（44×77cm・油彩）
増田欣子「剣岳初秋」（F80・油彩）「チベットからのインドヒマラヤ」（M30・油彩）
若林晴男「月下の鹿島槍岳」（F60・油彩）「春望白馬三山」（F20・油彩）

e．**入館者**：4,207 人（有料 3,664 人、無料 543 人）

f．**関連イベント**：

・オープニングセレモニーを 9 月 13 日（土）に博物館玄関前にて、諏訪県会議員・牛越市長・中牧市議会議長はじめ約 50 名の参加によりテープカットなどのあと鑑賞会。

・ギャラリートークを山博おもしろミニゼミのひとつとして実施し、作品の紹介や山や絵との出会いなどを作者に語っていただいた。延べ 142 人の参加。
9 月 14 日（日）牧潤一、21 日（日）中村勝久、28 日（日）上田太郎、10 月 5 日（日）武井清、12 日（日）高橋てる子、19 日（日）若林晴男、26 日（日）千葉潔

g．**所　見**：日本山岳画協会は今年で創立 72 周年を迎え、当館での展覧会は 6 回目となる。会期中に催したギャラリートークでの聴講者は、ご自身の好みに応じて熱心にその体験談に耳を傾ける姿が印象的であった。「山と博物館」（第 53 巻第 9 号）に紹介したが、カラーによる図録集の作成なども今後、検討を要する課題である。

②私の心のふるさと山展　～市内小中学生が描いた山岳画展～（担当：清水隆寿）

a．**会　期**：平成 21 年 10 月 12 日（日）～24 日（金）

b．**会　場**：講堂

c．**概　要**：大町第一中学校美術部のキッズ学芸員が中心となって企画・構成・展示を行った。

d．**展示資料**：動物をイメージしたオブジェと墨絵各 1 点、山岳画模写 18 点、水彩画 71 点

e．**所　見**：日本山岳画協会大町展にあわせ、大町第一中学校を中心に、仁科台中学校、八坂小学校、大町西小学校、大町東小学校、八坂小学校が賛同いただいた。自分がイメージする山をキャンバスに描き、学校の枠を越えて多くの地域の方々にご覧いただいた。展示に際しては中学校の美術部員を中心に展示の構成から立案するところから始まり、飾りつけ、広報活動のためのポスターやチラシの制作、また生徒自ら「キッズ学芸員」となって展示解説するなど、新たな試みをした。子供たちが山への想いを新たにし、博物館という会場が子供自身に新鮮みを持たせ、市民の方々にも関心を寄せていただく機会となった。

③山と祭り漆絵画展 by 岩淵陽人（担当：宮野）

a．**会　期**：平成 21 年 3 月 14 日（土）～4 月 19 日（日）

b．**会　場**：特別展示室・ホール

c．**概　要**：作者があみ出した手法による漆絵画を展示。本展示会のために若一王子神社の流鏑馬を制作し出品した。

d．**展示資料**：漆絵画 30 点

e．**入館者**：1,117 人（有料 983 人、無料 134 人）

f．**所　見**：地元作家の作品を展示する意義は大きく、今回は来館される方の「山」に対する期待に沿う内容にすることに重点をおいた作品と作者が追い求めている「祭り」の 2 テーマとした。解説するにあたりあまりなじみのない螺鈿技法を説明す難しさがあった。

(4) 移動展示

①さんぱく☆ぎゃらりー

博物館の日々の活動内容や調査研究、付属園の動物たちを市民や市役所職員に理解してもらい、来館・来園を促すため、市役所市民ホールを活用して展示を行った。

a．**「アニマルウォッチング」**（担当：飯島・岩本・上良）

・会期：平成 20 年 6 月 9 日(月)～27 日（金）(15 日間)
・概要：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話１７点を展示した。また特別企画として、観覧者が自らめくって楽しむことが出来るクイズ形式のボード「これはだれの足のうらでしょう？」４点を展示。

b.「アニマルウォッチング」(担当：飯島・岩本・上良)
・会期：平成 20 年 11 月 4 日(火)～11 月 21 日（金）(14 日間)
・概要：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話１７点を展示した。また特別企画として７月に出産したニホンカモシカの成長記録「オタリ親仔の観察日記」を第 15 回まで展示した。

c.「アニマルウォッチング」(担当：飯島・岩本・上良)
・会期：平成 21 年 3 月 2 日(月)～3 月 19 日（木）(14 日間)
・ 概要：飼育員だからこそ撮影できる動物たちの写真および撮影秘話１７点を展示した。また特別企画として平成 21 年の干支のウシにちなんで、ニホンカモシカの特集（シカとウシの違い、飼育しているカモシカの紹介等）を組んで展示した。

②「安曇野アートライン美術館展」(担当：宮野)
a. 会　期：平成 20 年 11 月 22 日(土)～12 月 26 日(金)
b. 会　場：国営アルプスあづみの公園 テーマ展示館 多目的ホール（安曇野市）
c. 概　要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。大町市からは不破章作の水彩「冬景」、海川博一作「五月の安曇野」の 2 点を出品。

2. 教育活動

(1) おもしろ山博ミニゼミ

小・中学校の完全週 5 日制に対応したイベントとして、平成 14 年から毎週末に開催したが、小中学生の参加が少なかったので、観覧者とのふれあいを兼ねた形式で館内での講座を行なってきた。基本的に 1 日 2 回（同じ内容)、1 回 10～20 分程度の所要時間。内容は展示に付随する解説、研究の成果、タイムリーな話題など幅広い分野について毎日曜日に開催した。

参加者は市外・県外からの来館者がほとんどであり、そうした方々に北アルプス山麓の自然や登山に関する話題や展示資料の詳しい紹介を行なうことで、館内の見学に付加価値を得て帰っていただくケースが多かった。また、定期的に参加いただける方や、公表したテーマに興味を持って参加していただける方もいた。

開催日			題名(担当)＊館外活動の場所(空白は館内)	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
4	6	日	ライチョウのオスとメス(宮野)	4	0	4
	13	日	雪崩ビーコンとは(柳澤)	0	0	0
	20	日	サクラソウのひみつ(千葉)	5	0	5
	27	日	付属園の動物ウォッチングⅠ(清水博文)	9	12	21
	29	火	付属園の動物ウォッチングⅡ(宮野)	7	3	10
5	3	土	付属園の動物ウォッチングⅢ(岩本)	13	11	24
	4	日	付属園の動物ウォッチングⅣ(宮野)	13	4	17
	5	月	付属園の動物ウォッチングⅤ(清水博文)	16	9	25

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
5	6	火	付属園の動物ウォッチングⅥ（飯島）	12	7	19
	11	日	小鳥の声を聞く会 （清水博文） ※	6	2	8
	18	日	顕微鏡で花の中をのぞいてみよう（千葉）	8	0	8
	25	日	北安曇の雪形　その出現時期（宮野）	15	0	15
6	1	日	6 月のライチョウ（宮野）	22	2	24
	8	日	慎太郎祭（柳澤）	8	0	8
	15	日	山と古代人の人々との関わり（清水隆寿）	6	0	6
	22	日	ササユリの花を見てみよう！（千葉）	5	0	5
	29	日	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」（清水博文）	17	0	17
7	6	日	顕微鏡で花の中をのぞいてみよう（千葉）	0	0	0
	13	日	雷に注意（柳澤）	7	12	19
	20	日	北安曇の立山信仰（清水隆寿）	9	0	9
	27	日	企画展示案内「カブトムシとクワガタムシ」（清水博文）	14	13	27
8	3	日	登山とけいれん（柳澤）	7	12	19
	10	日	北アルプス山名の由来と変遷（清水隆寿）	25	2	27
9	7	日	秋の草花	8	0	8
	14	日	日本山岳画協会展ギャラリートーク（牧潤一・清水隆寿）	16	0	16
	21	日	日本山岳画協会展ギャラリートーク（中村勝久・宮野）	21	0	21
	28	日	キノコ学習会※	29	1	30
			日本山岳画協会展ギャラリートーク（上田太郎・清水隆寿）	17	0	17
10	5	日	日本山岳画協会展ギャラリートーク（武井清・千葉）	22	0	22
	12	日	日本山岳画協会展ギャラリートーク（高橋てる子・柳澤）	7	1	8
	19	日	日本山岳画協会展ギャラリートーク（若林晴男・宮野）	15	0	15
	26	日	日本山岳画協会展ギャラリートーク（千葉潔・清水博文）	12	1	13
11	2	日	晩秋の山の天気（柳澤）	6	0	6
	9	日	ドングリころころ（千葉）	7	1	8
	16	日	ライチョウとナナカマド（宮野）	10	0	10
	23	日	佐々成政　雪の針ノ木越え（清水隆寿）	35	4	39
	30	日	林の中のエビフライ（清水博文）	17	6	23
12	7	日	ロープの結び方（柳澤）	11	6	23
	14	日	親子探鳥会（清水博文）※	19	10	29
	14	日	湿地植物観察説明会（千葉）	3	0	3
	21	日	国境警備・黒部奥山廻役（清水隆寿）	7	0	7
	28	日	ライチョウと雪（宮野）	0	0	0
1	4	日	昭和初期の登山用具（柳澤）	4	0	4
	11	日	クルミを食べたのはだ～れ？（清水博文）	4	3	7
	18	日	企画展の展示解説　ピッケルの輝き（清水隆寿）	2	0	2
	25	日	ドングリころころ（千葉）	7	0	7
2	1	日	小枝の卵の正体は？（清水博文）	3	0	3

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
2	8	日	播隆上人と槍ヶ岳開山（清水隆寿）	15	0	15
	15	日	雪が多いときライチョウはどうしているのか？（宮野）	9	0	9
	22	日	フクジュソウの花はなぜ開閉するのか？（千葉）	2	0	2
3	1	日	雪崩（柳澤）	6	0	6
	15	日	江戸時代の山岳信仰～有明山を中心として～（清水隆寿）	14	0	14
	22	日	日本の国蝶　オオムラサキの幼虫をみてみよう（清水博文）	19	14	33
	29	日	冬の鹿島槍からナンダコートへ（柳澤）	1	0	1
参加者数合計				574	130	704

＊ 印は野外での活動。

①小鳥の声を聞く会（担当：清水博文）

a. **開催日**：平成 20 年 5 月 11 日（日）

b. **場　所**：山岳博物館から鷹狩山山頂

c. **講　師**：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介

d. **協　力**：山岳博物館友の会

e. **参加者数**：大人 10 人　子供２人　計 12 人

f. **概　要**：野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。今回は雨天で寒かったため参加者が少なかった。観察した鳥類は、サンショウクイ・クロツグミ・オオルリ・キビタキなど計 30 種。そのうち渡り鳥（夏鳥）は 1/3 を占めていた。この観察会は、今回で 28 回（観察記録が残されているもの）を数え鷹狩山での野鳥の生息動態に関する調査記録を蓄積した。このような調査を継続することにより重要な資料が得られる。

②キノコ学習会（担当：千葉）

a. **開催日**：平成 20 年 9 月 28 日（日）

b. **場　所**：山岳博物館から鷹狩山周辺

c. **講　師**：飯島八郎・高野哲哉・（敬称略）

d. **参加者数**：大人 27 人　子供 1 人　計 28 人

e. **概　要**：参加者を 3 班に編成し、観察を行った。キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。なお、学習会への参加者の半数は「広報おおまち」から情報を得いていることがわかった。

③親子探鳥会（冬鳥の観察会）（担当：清水博文）

a. **開催日**：平成 20 年 12 月 14 日（日）

b. **場　所**：木崎湖周辺

c. **講　師**：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介（敬称略）

d. **参加者数**：大人 19 人　子供 10 人　計 29 人

e. **概　要**：観察コースは昨年と同じく、木崎湖南端より湖の東側遊歩道を通り、稲尾沢までを往復するもので、天候は雪が降り北風が強かった。記録した鳥類はオオバン・キンクロハジロ・マガモ・ヨシガモなど昨年記録のあった種のほか、新たにセグロセキレイ・ミソサザイ・エナガが確認され 28 種であった。特に、ヨシガモやハジロカイツブリなど比較的観察する機会の少ない鳥の特徴をゆっくりと見ることができた。鳥類以外では、リスによるアカマツ球果の食痕、ドブカイなどを手に取り観察も行った。今年の参加者には、フィールドスコープを持参された親子の参加が多く、じっくりと時間をかけて観察する姿がみられた。

(2) 研究会

①大町山岳文化研究会

同研究会は、山岳博物館友の会を主体にして広く一般市民の方々にも参加を募り、「「山岳」をテーマにおいて、北アルプスの登山史や地形・地質などの、雪形や現在の登山が抱える課題、自然保護など広範な人文・自然科学といった学問を横断して、会員みずからが地域を考え、互いに学習を深め生涯学習を推進していく場として、平成 20 年 7 月より活動を開始した。

概ね月 1 回、月半ば頃の水曜日、午後 6 時～8 時を目安に実施。平成 21 年 3 月現在、会員 16 名で活動している。以下は、本年度の活動内容の要旨である。

	実施日	内　　容	参加者
第 1 回	7 月 16 日	研究会の趣旨説明。研究会の進め方などについて討議。	5
第 2 回	8 月 20 日	今後の活動内容を討議。「山博所蔵の山岳写真資料を学ぶ」。	5
第 3 回	9 月 17 日	「信州 北アルプス写真誌」を通した討論、小林喜作について。	8
第 4 回	10 月 15 日	山案内人－嘉門次、品右衛門、喜作を学ぶ。	6
見学会	11 月 9 日	穂高牧地区、小林喜作のふるさとを訪ねる。	6
第 5 回	11 月 19 日	鹿島・源汲 山麓の生業と山との関わり。　講師：荒井今朝一	8
第 6 回	12 月 17 日	北アルプスの山案内人を学ぶ。	5
第 7 回	1 月 21 日	登山時における食事の歴史。	6
第 8 回	2 月 18 日	「ペミカン」試食。近代登山時の食事。	5
第 9 回	3 月 18 日	映画「剣岳＜点の記＞」にあわせ測量登山の歴史を学ぶ。	5

②大北地域の湿地植物の生活史研究グループ研究会

同研究会は、山岳博物館友の会を主体にして広く一般市民の方々にも参加を募り、大北地域の湿地に生育する植物 10 種を対象に生活史や開花特性、結実特性、生物間関係などを解明し、平成 23 年度秋にその成果を発表することを目的に、発足した。メンバー5 名で活動している。

	実施日	内　　容	参加者数
第 1 回	1 月 24 日	対象植物の参考資料の配布と補足説明	5
第 2 回	2 月 14 日	担当植物の観察計画について	4
第 3 回	3 月　7 日	担当植物の観察計画の発表とスケジュール調整	3
第 4 回	3 月 15 日	ミズバショウの観察	4
第 5 回	3 月 20 日	ミズバショウとリュウキンカの観察	4
第 6 回	3 月 26 日	ミズバショウとリュウキンカの観察	2

(3) 学習会・講座等の開催

①付属園スタンプラリー（担当：飯島・岩本・上良）

a. 開催日：平成 20 年 4 月 26 日（土）～5 月 6 日（火）（11 日間：うち 1 日間は雨天中止）
平成 20 年 7 月 19 日（土）～8 月 24 日（日）の土・日曜・祝日、8 月 13 日～15 日は毎日開催（16 日間：うち 2 日は雨天中止、2 日は時間短縮）
平成 20 年 11 月 1 日（土）～3 日（月・祝）

b. 場　所：付属園

c. 参加者数：4 月 26 日～5 月 6 日：564 人
7 月 19 日～8 月 24 日：460 人
11 月　1 日～3 日：69 人

d. **概　要**：付属園内数カ所に、職員手作りのオリジナルスタンプを設置し、動物を観察しながらスタンプを探して集めてもらう。また全てスタンプを集めた参加者には、参加記念とし、特大スタンプを押印し、ミニガイドブックを差し上げた。

e. **所　見**：ゲーム感覚で参加できることで、子供はもちろん大人の方にも楽しんでもらうことができた。また手作りのスタンプやガイドブックも高評価をいただいた。

②春の動物写生大会（担当：清水隆寿）

a. **開催日**：４月 26 日(日)～５月６日(火)(11 日間)

b. **場　所**：付属園

c. **協　力**：荒井泰三（写生指導・敬称略）

d. **参加者数**：127 人（園児 18 点、小学生 105 点、中学生 4 点）

f. **概　要**：市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。昨年度好評だった、山博おもしろミニゼミ「付属園の動物ウォッチング」を今年度も開催し、飼育動物の生態、身体のしくみや特徴などを学芸員が説明した。

(4) 学校との連携、融合

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校･学年など	人数	担当
4 月 30 日	生き物の学習、動物の絵を描く	大町東小２年	44	清水隆寿、飯島
5 月 18 日	遠足で地域を知る学習	大町美麻小1．2年	18	清水隆寿
5 月 13 日	遠足での学習	大町北小３年	83	柳澤･宮野･千葉
5 月 31 日	親子でネイチャーゲームと笛作り	大町西小２年(2組)	58	宮野
6 月 18 日	自然観察学習(青木湖ｷｬﾝﾌﾟ場)	大町西小５年	67	清水博文
6 月 24 日	登山事前学習会	大町第一中2年	126	柳澤、千葉
7 月 14 日	自然観察学習(木崎湖ｷｬﾝﾌﾟ場)	大町南小５年	74	清水博文
7 月 15･16 日	職場体験学習	八坂中２年	2	飯島、岩本、上良
7 月 15 日	野外実習の事前学習 昆虫と植物の共進化(大町高校)	大町高校１年	33	千葉
7 月 16 日	甲虫の学習会	大町南小４年(2組)	25	清水博文
7 月 22･23 日	職場体験学習	小谷中３年	1	飯島、岩本、上良
7 月 23･24 日	登山引率　蝶ヶ岳 小蓮華岳	大町高校 1～3 年	107 65	千葉 岩本
7月 30 日	野外実習　身近な自然、湿原の二次遷移(親海湿原)	大町高校１年	33	千葉
9 月 4～5 日	職業体験学習	大町仁科台中２年	2	飯島、岩本、上良
10 月 16･17 日	職業体験学習	大町第一中２年	2	飯島、岩本、上良
2 月 25 日	総合的学習	大町南小４年	24	清水博文
3月 5 日	総合的学習	大町南小４年	24	清水博文
2 月 21日～ 3 月 8 日	ともに歩む　山と木と光と人… 山の創作オブジェ	大町第一中美術部	20	清水隆寿
実施回数:18 回		学校数:10 校	人数合計:808 人	

(5) 学芸員実習の受入（調整：宮野）

期　日	実 習 者	人員	担当
9 月 18 日～30 日（10 日間）	信州大学理学部生物科学科 4 年	2 人	柳沢、宮野、清水博文、清水隆寿、千葉、岩本
3 月 19 日	國學院大學　博物館學研究室	32 人	宮野
	合　計	34 人	

学芸員実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、山岳博物館では 10 日間の実習を原則としてしている。本年は２名を受け入れ、受付業務、資料整理、教育普及等の実習を行い、特にキノコ展の準備等の実習では多くの時間の実習にあたった。また博物館実習の一部として行っている巡見研修を受け入れた。

(6) 各種観察会・学習会の共催・協力（調整：宮野）

期日	内容(館外実施場所)	主 催	参加者	担当
5月10日～25 日	雪形のある風景写真展(ギャラリーいーずら)	北アルプス雪形まつり実行委員会	出展数 50 点	清水隆寿
5 月 18 日	雪形なんでも座談会(ギャラリーいーずら)	北アルプス雪形まつり実行委員会	6 人	清水隆寿
5 月 10･17･25 日	雪形ウォッチング(市内～南･北安曇郡内)	北アルプス雪形まつり実行委員会	45 人	清水隆寿
5 月 25 日	第7回北アルプス雪形まつり(大町市文化会館)	北アルプス雪形まつり実行委員会	約 1500 人	清水隆寿
6 月 13 日	信州登山案内人試験(長野県山岳総合センター人工岩場)	長野県観光部	7 人	柳澤
6 月 12 日	職員向け安全登山講習会	大町高等学校	30 人	柳澤
7 月 29 日	夏休みの自然観察教室(松川村ふれあい館)	松川村	52 人	清水博文
8 月 5 日	山と文学	長野県国語教育学会 北安曇国語研究会	34 人	柳澤
8 月 5 日	児童センター昆虫教室	大町市児童センター	25 人	清水博文
8 月 9 日	身近な草花について(林中公民館)	池田町林中子ども会	55 人	千葉
9 月 6 日	何でもチャレンジ 2008 自然編:川と遊ぼう(高瀬川)	松川村公民館	65 人	清水博文
10 月 3 日	山岳自然保護講座(長野県山岳総合センター)	長野県山岳総合センター	25 人	千葉
10 月 11 日	日本昔話学会大町大会(サン･アルプス大町)	日本昔話学会	100 人	清水隆寿
10 月 13 日	日本昔話学会臨地研修(大町･穂高･生坂･八坂)	日本昔話学会	25 人	清水隆寿
11 月 30 日	冬鳥の勉強会	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	8 人	清水博文
2 月 22 日	冬鳥の観察会	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	19 人	清水博文
			参加者数合計	約 2,000 人

(7) テレビ、ラジオへの出演（調整：宮野）

放送日	放送局名	番組名	形態	内容
7 月 14 日	NHK 総合テレビ	アート de 信州	生出演	企画展「カブトムシとクワガタムシ」解説
2 月 9 日	NHK ラジオ第一	もぎたて信州朝一番	電話で生出演	企画展「ピッケル」解説

(8) 収蔵資料などの貸出（調整：宮野）

期　日	用途	貸出先	貸出資料
4 月1日～3月 31 日	教育普及用	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示用	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	常設展示用	富山市科学文化センター	ライチョウ剥製 1 点
7月1日～9月3日	展示用	糸魚川歴史民俗資料館	ライチョウ剥製2点

このほかにも多数の各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる取材や資料撮影・閲覧などがあり、随時これらに協力した。

3. 執筆・出版

(1) 執筆

①大糸タイムス連載「山博ゼミ」（調整：宮野）

平成 15 年 3 月から地元新聞へのシリーズで隔週土曜日に連載。北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて、隔週土曜日の地元新聞紙面にて紹介している。

新聞の紙面を借りることで、北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて多くの方々に向けて効果的に情報発信することができる。また、記名記事であることから博物館職員の“顔”が見えるということで市民から好評を得ている。

掲載月日	回	執筆者	題　　名
4 月 5 日	155	峯村	山の名前の覚え方
19 日	156	柳澤	凍傷と低体温症
5 月 3 日	157	千葉	白いお花が大集合⑥カタクリ
17 日	158	宮野	大きいライチョウ・小さいライチョウ
31 日	159	飯島	人が育てる
6 月 14 日	160	柳澤	岩小屋沢の大雪崩
28 日	161	清水隆寿	雪形の発見されたとき
7 月 12 日	162	清水博文	新芽に集まるコルリクワガタ
26 日	163	岩本	カモシカ出産　裏ばなし
8 月 9 日	164	清水隆寿	古代における山と人々との関わり
23 日	165	宮野	餓鬼岳のライチョウの糞
30 日	166	宮野	餓鬼岳のメスのライチョウ
9 月 6 日	167	宮野	餓鬼岳のオスのライチョウ
20 日	168	柳澤	鹿島槍ヶ岳カクネ里
10 月 4 日	169	清水博文	地面を歩く宝石
18 日	170	千葉	大北の湿地植物

掲載月日	回	執筆者	題　　名
11 月 1 日	171	柳澤	寒冷環境と褐色脂肪
15 日	172	上良	動物を飼育する責任
29 日	173	清水隆寿	立山信仰と北安曇
12 月 13 日	174	千葉	帰化植物②－オオキンケイギクー
27 日	175	飯島	ワケありなんです。
1 月 10 日	176	宮野	ロードキル
24 日	177	岩本	子育ての心情
2 月7日	178	清水博文	シャチホコガ
21 日	179	清水隆寿	ピッケルの輝き
3 月 7 日	180	柳澤	雪の鹿島槍ヶ岳からヒマラヤへ
22 日	181	宮野	省エネで過ごす冬のライチョウ

(2) 出版

①新規出版物

a. 展示解説情報シート

常設展示に関して、展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめた A4 判のカラー版。館内にて 1 部 30 円で販売しており、今年度は 335 部の利用があった。

b.『山と博物館』（担当：宮野・清水隆寿）

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月『山と博物館』に改題）。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む）。

平成 21 年 3 月 31 日現在、購読者数 515 名。内訳は市内 113 名（有料 5 名、無料 33 名、友の会 75 名）、市外 402 名（有料 43 名、無料 271 名、友の会 88 名）

巻号	月	頁	題　　名	著者名
53・4	4月	①	山案内人の食事･炊事風景 ＊	百瀬堯(蔵)
			古き時代の山での食	宮野典夫
		②	キタキチョウの越冬場所について	清水博文
		②～③	山小屋の焼印について	清水隆寿
		④	山岳博物館オフィシャルホームページ	千葉悟志
53・5	5月	①	桜と後立山 ＊	竹村昭八
			山岳文化都市宣言	(大町市)
		②～④	山岳公募写真展	大町山岳博物館
53・6	6月	①	樹液にあつまる甲虫 ＊	前河正昭
			「ｶﾌﾞﾄﾑｼとｸﾜｶﾞﾀﾑｼ-里山の甲虫たちの未来は?-」開催にあたって	大町山岳博物館
		②～⑥	甲虫類のビオトープづくりを起点として里山の保全戦略を考える	前河正昭
53・7	7月	①	(ニホンカモシカ)	飯島志津･岩本尚也･上良智
			ニホンカモシカの赤ちゃん誕生！	
		②～④	黒部に逝った信州の名猟師小林喜作(前編)カモシカの宝庫棒小屋沢	伊藤達夫

巻号	月	頁	題　　名	著者名
53・8	8月	①	鹿島槍荒沢奥壁	柳澤昭夫
			大町山岳文化研究会の発足にあたって	清水隆寿
		②～④	黒部に逝った信州の名猟師小林喜作（後編）厳冬の後立山西面に印された最後の足跡	伊藤達夫
53・9	9月	①	エベレスト山　油彩・30 号　＊	牧潤一
			第 6 回日本山岳画協会大町展開催にあたって	日本山岳画協会
		②	峡谷の村 五色ヶ原 初秋の雲の平	岩切岑泰 上田太郎 江村真一
		③	川の流れのように 独標から西穂高岳 北アルプス冠雪 槍ヶ岳遠望	小高民江 熊谷榧 後藤三男 須藤卓男
		④	マーターホルン 双六岳のお花畑 憧れのランタン谷	武井清 高橋てる子 田中泰道
		⑤	絵描きの引っ越し 北穂への想い Beautiful Day	千葉潔 中村勝久 藤田錦一
		⑥	出品作品解説 左手で描く 制作余話-月下の鹿島槍岳と春望白馬三山-	牧潤一 増田欣子 若林晴男
53・10	10月	①	栂池自然園展望湿原より白馬大雪渓を望む　＊	渡辺浩
			大町山岳博物館へ行ってみよう	
		②～④	白馬乗鞍岳のライチョウ	肴倉孝明
53・11	11月	①	スバーバルライチョウ　＊	（財）東京動物園協会
			ライチョウに挑戦	小宮輝之
		②～④	大黒鉱山をめぐる人々	菊池今朝和
53・12	12月	①	秋田県鹿角インターハイスキー大会（2006.2.7）＊	宮本義彦
			スキー部員たち	
		②～③	やり場のない悩みは、大自然の祭壇である山へ -生涯学習としての心の旅路-	牛越充
		③～④	山を仰ぎ武田武氏を悼む	藤沢秀
54・1	1月	①	大冷沢本谷より見た「鹿島槍ヶ岳の鶴と獅子」＊	柳澤昭夫
			大町山岳博物館に夢をたくす	丸山一由
		③	企画展「ピッケルの輝き」	清水隆寿
		③～④	爺ヶ岳登山における大町一中生徒がからだに受ける影響	柳澤昭夫

巻号	月	頁	題　　名	著者名
54・2	2月	①	孤高の刻　漆絵画･F･50　＊	岩淵陽人
			「山と祭り漆絵画展」に寄せて	
		②～④	画業来し方行く末	岩淵陽人
54・3	3月	①	(ニホンカモシカ)＊	大町山岳博物館
			カモシカの名前募集!!	
		②～④	牧山案内人組合草創期の人々	古幡開太郎

＊印は表紙写真等を示し、この場合の著者名は撮影・提供者名等を記した。

c．**年報**（担当：宮野）

『平成 19 年度年報』（発行日：平成 20 年 6 月 17 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、40 頁、単色刷り）を編集・発行した。

.**②販売中の出版物**

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 21 年 3 月 31 日現在）

書　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中
北アルプスの自然と人(展示案内書)	大町山岳博物館	2005 年	〃
カモシカ　氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中
ライチョウ　生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地　安曇野　輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃

4．インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉）

今年度は、『オタリ親子の観察日記』『山岳文化研究会』『大北地域の湿地植物の生活史研究グループ』を新設した。

『お知らせ』、「今日の北アルプス」、「アニマルウォッチング」は一日も休むことなく更新した。また『学芸員情報情報』は 6 の話題、『飼育員の奮闘記』は 26 の話題を提供し、喫茶売店こまくさの紹介や同所で行われた作品展、イベントの PR にも努めた。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2) 安曇野アートラインウェブサイト（担当：宮野・岩田）

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成17年4月にウェブサイトを開設し、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルした。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。“今週のおすすめ”では 6 月 7 日、8 月 18 日、10 月 27 日、1 月 5 日、3 月 16 日にトップページでイベント情報を提供した。

URL：http://azumino-artline.net /oomachi/

5．広報

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図（担当：岩田）

大町博物館連絡会は市内加盟館 10 館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで平成 20 年 1 月に発行したものを、近隣のホテル・旅館や夏休み前に市内小学校に配布した。

(2) ポスター（担当：千葉）

平成 19 年 12 月より、博物館への誘客を目的に大町市観光協会ガラス面を利用して、博物館三階からの眺望を紹介したポスター（縦 420㎜×横 1800㎜）3 枚を掲示し、開館時間・料金・企画展開催日時の周知にした。

６.友の会（担当：宮野）

(1) 組織

①役員

a. **会　長**　宮澤洋介

b. **副会長**　有川美保子、西沢泰夫

c. **運営部**　部長：有川美保子　部員：松坂美治子、山崎一彦、塩瀬淳也、栗林稔、宮田京子、西沢泰夫、川崎晃、丸山優子、関悟志、宮野順子

d. **編集部**　部長：丸山卓哉　　部員：宮澤洋介、木村節子、岑村隆、五十川渡

e. **事務局**　仙波美代子、宮野典夫

f. **監　査**　倉科恵一、越山頼子

②構成（平成 21 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ﾌｧﾐﾘｰ会員	313 人(85 ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	69 人	学生会員	1人
賛助会員	2 団体、1 人	終身会員	3 人	名誉会員	4 人
合　計	391 人、2 団体				

(2) 運営部

①行事

活動日	参加	主な内容
5 月 24 日（土）	21 人	塩の道を歩くⅧ「夏中より平岩へ」
7 月 27 日(日)	13 人	自然観察登山「焼岳登山」
9 月 23 日(火・祝)～24 日(水)	11 人	史跡・美術館・博物館めぐり「立山カルデラ砂防博物館」
10 月 25 日(土)	25 人	秋の自然観察会「神秘の石仏と里山散策・池田町広津」
12 月 7 日(土)	11 人	伝統技術を学ぶ「役に立つロープワークとしめ縄作り」
2 月 11 日(水・祝日)	17 人	冬の自然観察会「雪とたわむれる…岩岳山頂周辺
3 月 8 日(日)	61 人	総会記念講演会「山に学ぶ」丸山晴弘氏
3 月 8 日(日)	23 人	友の会総会
2 月 13 日(金)～3月 8 日(日)	4 人	友の会作品展 10 点

②「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
131号	4月5日	行事案内…塩の道を歩く「夏中より来馬へ」 報告…平成20年度友の会総会、講演会　他
132号	6月28日	行事案内…自然観察登山「中の湯から焼岳へ」 報告…塩の道を歩く お知らせ…登山史研究会の発足ほか
133号	8月25日	行事案内…博物館めぐり「立山砂防カルデラ博物館へ」 報告…自然観察登山
134号	10月2日	行事案内…秋の自然観察会「神秘の石仏と里山散策…池田町広津、伝統技術をを学ぶ「役に立つロープワークとしめ縄づくり」 報告…博物館めぐり
135号	1月20日	行事案内…冬の自然観察会「雪とたわむれる…大町スキー場周辺散策」、総会記念講演会「山に学ぶ」、総会 報告…秋の自然観察会、役に立つロープワークとしめ縄づくり

(3) 編集部

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第36号	3月9日	友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感 【追悼】武田武さん・荒澤進さん 行事グラフ…写真で綴る年間行事の紹介 サークルだより…烏帽子の会とこども探検クラブの報告

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成21年4月12日（土）～平成21年11月3日（月・祝日）

1階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供

(5) サークル活動

①子供探検クラブ

野外活動を中心になんでもやってみようという小学生のサークル。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
11月30日（日）	冬鳥の勉強会	8人	3月22日（日）	冬越しする虫	14人
2月22日（日）	冬鳥の観察会	19人			

②烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れてってもらう登山」ではなく「連れていく山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル。平成21年3月末日、サークル会員は23名。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
4月27日(日)	大渚山(小谷村)	11人	2月7日(土)	乗鞍滝めぐり (松本市安曇)	11人
5月31日(土)	居谷里山(大町市)	7人			
7月5日(土)	京ヶ倉(生坂村)	13人	3月	栂池自然園～木地屋	7人
9月27日(土)	黒川沢めぐり	10人			
11月1日(土)	北八ヶ岳池めぐり(茅野市)	9人			

7. ライチョウ会議（担当：清水博文）

(1) ライチョウ会議

平成 18 年 6 月 27 日より会議設置要綱を改正し、会議の活動目的を明確にした。構成員にはライチョウに関わる国・県の行政担当課をはじめ、富山雷鳥研究会・静岡ライチョウ研究会などライチョウ保護関係団体との意見交換の場として機能されている。また、大町市（市立大町山岳博物館）は昨年度に引き続き事務局を委嘱されている。

(2) 第 9 回ライチョウ会議新潟大会

ライチョウ会議新潟大会は、国内研究者・行政関係者・環境ＮＧＯ等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と現状の把握、具体的な保護活動の検討などライチョウについての知見を深め、野生動植物の保護・自然環境保全の啓発を目的として開催された。平成 20 年 11 月 15～16 日の 2 日間、新潟県新潟市ウエルサンピア新潟において行政・研究者、一般市民等のべ 190 名が参加した。

「日本分布最北端のライチョウは守れるか？－希少鳥類の保護に向けて－」を開催テーマとして、以下の 4 部で構成された。セッションⅠは「新潟県のライチョウ－昔と今－」で、日本最小の孤立個体群である火打山とその周辺山塊における調査の歴史、生息状況、植生について考察した。セッションⅡは「山岳環境とライチョウ」として、南アルプスにおけるシカによる食害などの植生破壊の問題、白山などライチョウが絶滅した山域や、ライチョウの生息していない飯豊連峰の環境についてを論じた。セッションⅢでは「希少鳥類の保護に向けて」と題し、新潟県の希少鳥類、特に近年個体数が減少しているブッポウソウの分布の変遷と保護対策についての事例発表があった。セッションⅣの「ライチョウを守るために何ができるか？」と題したパネルディスカッションでは、トキ保護センターからの発表もあり、ライチョウを含めた希少鳥類を保護することの重要性について認識を深めた。

平成 21 年に開催予定の第 10 回ライチョウ会議東京大会は、上野動物園が中心となり準備を進めている。

8. ボランティア活動（担当：宮野）

(1) 友の会との連携

月　日	内　　容	参加者
5 月 11日(日)	小鳥の声を聞く会サポート(豚汁サービス)	2 人
9月 28 日(日)	キノコ学習会サポート(キノコ汁サービス)	4 人

(2) その他

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(火)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 80 人
5 月 4 日(日)･5 日(月･祝日)	春の写生大会指導	荒井泰三	1 人
7 月 24 日(木)	博物館周辺草刈及び清掃活動	有明高原寮	38 人

（敬称省略）

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1．動物飼育繁殖（担当：清水博文、飯島、岩本、上良）

付属園の今後のあり方については、博物館全体の中の事業としての位置づけ、施設の老朽化、ライチョウの生息域外保全（低地飼育）事業の凍結等多くの課題を抱えている。今後の事業展開の方向性に関しては、市民意見を反映させるため協議会からいただいた意見など教育委員会に諮った結果、当面の間は現状維持という事業展開の指示があった。

（1）飼育動物

①飼育動物の増減

a．繁殖個体

・ニホンカモシカ

平成 20 年 7 月 9 日　愛称オタリ（メス）とハクバ（オス）（共に保護個体）の間に、1 個体の出産があった（自然繁殖）。

b．死亡個体（傷病鳥獣として救護した個体は除く）

・ホンドキツネ（メス）平成 20 年 6 月 19 日死亡。死因：肺炎。平成 8 年 7 月 26 日に市内動物病院より来園した個体。

・ホンドタヌキ（オス）平成 21 年 1 月 30 日死亡。死因：衰弱。平成 10 年 6 月 1 日に自然繁殖した個体。

c．今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として保護収容個体を用い繁殖計画を行いたい。今後も友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等も行いたい（現在、ブリーディングローンとして富山ファミリーパークに 1 個体貸出し中）。

②飼育動物

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ホンドタヌキ		1		1	カルガモ			(1)	(1)
ホンドキツネ	(1)			(1)	トビ		(1)	(6)	(7)
ハクビシン	(2)	(1)		(3)	チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
シベリアオオヤマネコ	1			1	ニホンキジ	1(1)	2(1)		3(2)
ニホンカモシカ	3(2)	3(1)		6(3)	キジバト			(1)	(1)
					オオコノハズク			(1)	(1)
					フクロウ			(1)	(1)
計	3(5)	4(2)		8(7)	計	1(2)	2(3)	(10)	3(15)

哺乳類 3（3）種・鳥類 1（7）種　　合計 4（10）種 11（22）個体

※（N）の数は保護動物

上記の他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホール・付属園内においてイモリ・カナヘビ・ニホントカゲなど両生類・爬虫類のほか、カブトムシ・クワガタムシのなかま・スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた展示を行った。

(2) 傷病鳥獣保護

長野県より平成20年度野生傷病鳥獣救護事業委託として、大町市および近隣市町村をにおける野性傷病鳥獣救護施設のひとつとして保護動物を受け入れている。

①収容個体数

哺乳類　2（3）種　2（8）個体

（ニホンカモシカ（4）・ニホンジカ 1・ハクビシン（3）・ホンドキツネ（1）・ニッコウムササビ 1）

鳥類　8（7）種　9（14）個体

（オシドリ（1）・トビ 1（6）・チョウゲンボウ（2）・ヤマドリ 1・ニホンキジ（2）・チュウサギ 2・キジバト（1）・オオコノハズク（1）・コノハズク 1・フクロウ（1）・ツバメ 1・カルガモ 1・アオゲラ 1・ハクセキレイ 1）

合計 11（22）個体（そのうち死亡個体 7（2）・放鳥獣個体 2・他施設への転出個体 0・現在飼育中個体 2（20））　　※（N）の数は前年度からの継続依頼個体である。

②所見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、人工保育で育てた個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

2. 植物栽培繁殖（担当：千葉）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

新規なし。

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、オオシラヒゲソウ、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、ミソハギ、トキソウ

③今後の計画

市観光課、企画財政課、大町市観光協会、ＪＲ信濃大町駅の協力のもとサクラソウの栽培展示を駅周辺で行った。展示は好評であった。

来年度から「大北地域の湿地植物の生活史」を観察するために、新たにアカバナの種子を播種した。

Ⅴ　その他

1．各種委員などの委嘱

高山植物等保護対策協議会中信地区・理事（柳澤）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（柳澤）
大町博物館連絡会・会長（柳澤）
大町市観光協会・理事（柳澤）
大北地方特定鳥獣保護管理対策協議会委員（柳澤）
長野県山岳総合センター運営懇談会委員（柳澤）
ライチョウ会議構成員（柳澤）
慎太郎祭実行委員（柳澤、千葉）
桜まつり実行委員（柳澤、宮野）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野）
長野県科学振興会大町支部・理事（宮野）
仁科三湖対策協議会（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（清水隆寿）

2．アルペン動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルペン動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結を行なった。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

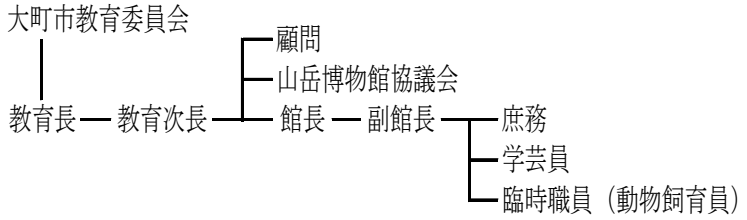
3．信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳総合研究所（藤沢謙一郎所長）と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結を行なった。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山学博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳およびそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

Ⅵ　運営

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

千葉彬司

（3）協議会委員

学校教育関係者：小澤洋治

社会教育関係者：松原繁、横川仁、鈴木啓助

学識経験者：藤沢秀、今滝一登美、大坪三好、片山壮二、佐藤悟、下崎雄一郎、成沢勝人

（4）職員

①配置

館　長　柳澤昭夫（嘱託）

副館長　宮野典夫（学芸員兼務）

庶　務　岩田直美

学芸員　清水隆寿（人文科学系）　清水博文、千葉悟志（自然科学系）

臨時職員　飯島志津、岩本尚也、上良智（動物飼育）

②人事異動

転　出　庶務・平林恵理子（平成 20 年 3 月 30 日付にて福祉課福祉係へ）

合津明（平成 20 年 3 月 30 日付にて建設課維持係へ）

学芸員・岑村隆（平成 20 年 3 月 30 日付にて生涯学習課文化財係へ）

転　入　庶務・岩田直美（平成 20 年 4 月 1 日付にて税務課税務担当より）

学芸員・清水隆寿（平成 20 年 4 月 1 日付にて生涯学習課文化財係より）

新　規　動物飼育（臨時職員）・上良智（平成 20 年 4 月 1 日～）

2．協議会

（1）第 1 回協議会

① **日時**：平成 21 年 3 月 25 日　午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

② **場所**：山岳博物館　講堂

③ **出席者**：藤沢秀、小澤洋治、中島信人（大坪代理）、湯澤将憲、松原繁

（委任状提出者：鈴木啓助、今滝一登美、下嵜雄一郎）

④**内容**：・報告

平成 20 年度の事業経過

・協議

平成 21 年度事業計画について

付属園について

3. 入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
昭和26	291		100	21		77	489				
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
31	2,148		888	1,036		858	4,930				
32	1,934		658	826		1,880	5,298				
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943				
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,143	1,429			1,429
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325

(2) 平成20年度の入館者状況

（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	786	1	42	99	0	1	929	85	14	19	118
5	1,318	7	89	314	1	16	1,745	257	2	140	399
6	824	2	21	332	0	3	1,182	112	18	133	263
7	1,134	5	104	298	322	367	2,230	222	7	118	347
8	2,386	68	376	615	18	167	3,630	234	12	90	336
9	1,317	27	43	281	1	3	1,672	83	83	10	176
10	1,641	1	35	337	38	3	2,055	301	24	10	335
11	796	4	34	217	0	5	1,056	91	7	7	105
12	266	6	14	90	0	6	382	23	5	4	32
1	202	2	6	81	0	2	293	20	2	0	22
2	364	2	15	0	0	0	381	49	5	48	102
3	498	5	24	102	1	5	635	41	9	40	90
合計	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325
前年度計	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874
前年度比	104.9%	108.3%	108.2%	115.2%	93.6%	55.7%	103.1%	139.7%	200%	89.3%	124.1%

(3) 平成 20 年度の開館日数

316 日

4. 平成 20 年度予算・決算

(1) 歳入　　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	計
当初予算	8,030,000	120,000	150,000	1,000,000	888,000	10,188,000
決算額	5,962,550	85,600	217,000	1,500,000	658,076	8,423,226
	△2,067,450	△34,400	67,000	500,000	△229,924	△1,764,774

(2) 歳出

項目	一般職員人件費	管理運営一般経費	教育普及事業	調査研究事業
当初予算	41,443,000	16,195,000	4,949,000	876,000
決算額	32,472,167	15,390,073	4,846,438	1,212,084
	△8,970,833	△804,927	△102,562	336,084

項目	資料収集保管	動植物飼育栽培	展示改修事業	計
当初予算	780,000	8,186,000	1,020,000	73,449,000
決算額	735,390	7,912,073	886,226	63,454,451
	△44,610	△273,927	△133,774	△9,994,549

Ⅶ　関係条例規則

1．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第5条　博物館を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委

員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

1　この条例は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第 5 条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、昭和 58 年 3 月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号）

この条例は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成元年 3 月 24 日条例第 7 号）

この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号）

この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 29 月条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附　則′（平成 17 年 12 月 6 日条例第 30 号）

この条例は、平成 18 年 1 月 1 日から施行する。

別表第 1（第 5 条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1 人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第 2（第 6 条関係）

望遠鏡使用料	1 回　　100 円

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）

第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1)　毎週月曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）

（開館時間）

第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2)　管理上支障があると認められるとき。

(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。

2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。

2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。

附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式（省略）

3．大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。
附　則
この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　施設

1．敷地面積

39,875.92 ㎡

2．本館建物

（1）構　造：鉄筋コンクリート　地上 3 階 地下 1 階
（2）竣　工：昭和 57 年 5 月 31 日竣工
（3）延べ床面積：2,207.0 ㎡
（4）床面積表　（単位：㎡）

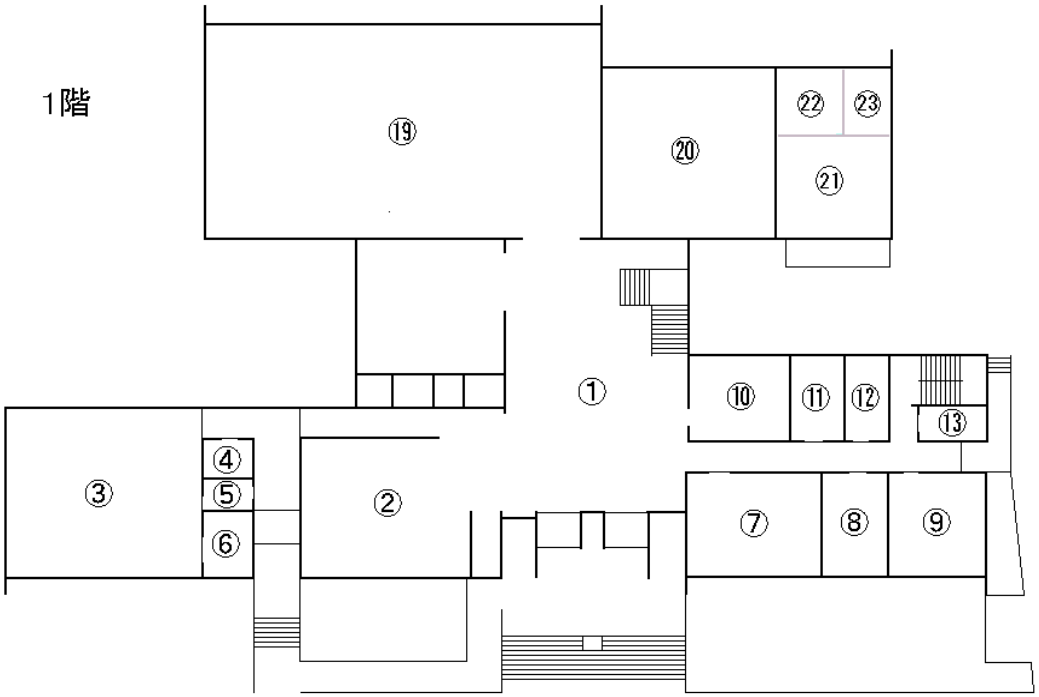
名称および面積	名称および面積	名称および面積	名称および面積
1 階　1244.9	⑬倉 庫　8.8	2 階　686.1	3 階　116.8
①ホール　205.5	⑭E. V　5.1	㉔ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ　113.6	㉜展望室　94.6
②喫茶　74.2	⑮給湯室　3.0	㉕研究室　69.6	その他（階段）86.9
③講 堂　110.2	⑯倉 庫　3.5	㉖図書室　34.8	
④便 所　8.1	⑰EV 機械室　6.0	㉗倉 庫　16.0	地階　159.2
⑤映写室　5.4	⑱特別展示室　70.4	㉘収蔵庫　42.1	㉝機械室　118.8
⑥準備室　9.1	⑲第 1 展示室　290.0	㉙便 所　18.2	㉞車 庫　23.0
⑦事務室　51.0	⑳収蔵庫　104.0	㉚第 2 展示室　290.0	その他（階段）17.4
⑧館長室　18.6	㉑荷解・作業室　41.3	㉛ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　14.9	
⑨宿直室　32.5	㉒ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　16.4	その他（廊下、階段）	
⑩便 所　29.0	㉓燻蒸室　12.3	86.9	
⑪書 庫　16.7	その他（廊下、階段）		
⑫更衣室　14.6	109.2		

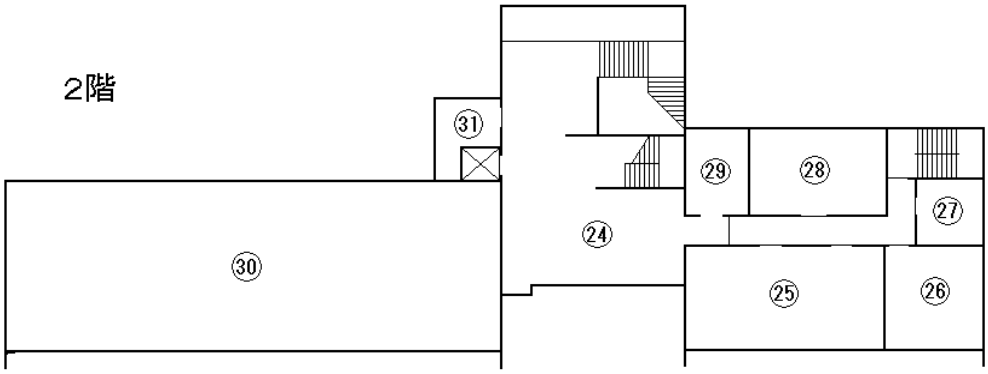
3．付属施設

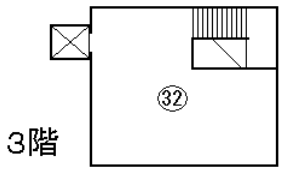
（1）付属園（本館隣）の建物

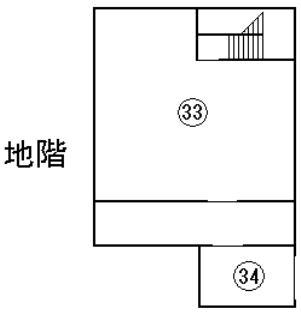
施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）	
A-1	33.44（S42,43）	B-3	22.62（S53）	B-6	18.99（S61）
A-2	44.275（S44,46）	B-4	39.63（S54,55）	B-7	46.5（S61）
A-3	15.24（S48）	B-1	28.20（S38）S55 移設	B-8	26.92（H1）
A-5	33.44（S49）	A-4	16.20（S48）S55 移設	B-9	34.83（H3,4）
A-6	42.85（S49）	B-6	18.99（S61）	B-10	5.2（H3）
A-7	20.26（S51）	B-7	46.5（S61）	B-11	67.65（H4）
A-8	11.55（S53）	B-8	26.92（H1）	B-12	44.88（H7）

4. 本館平面図

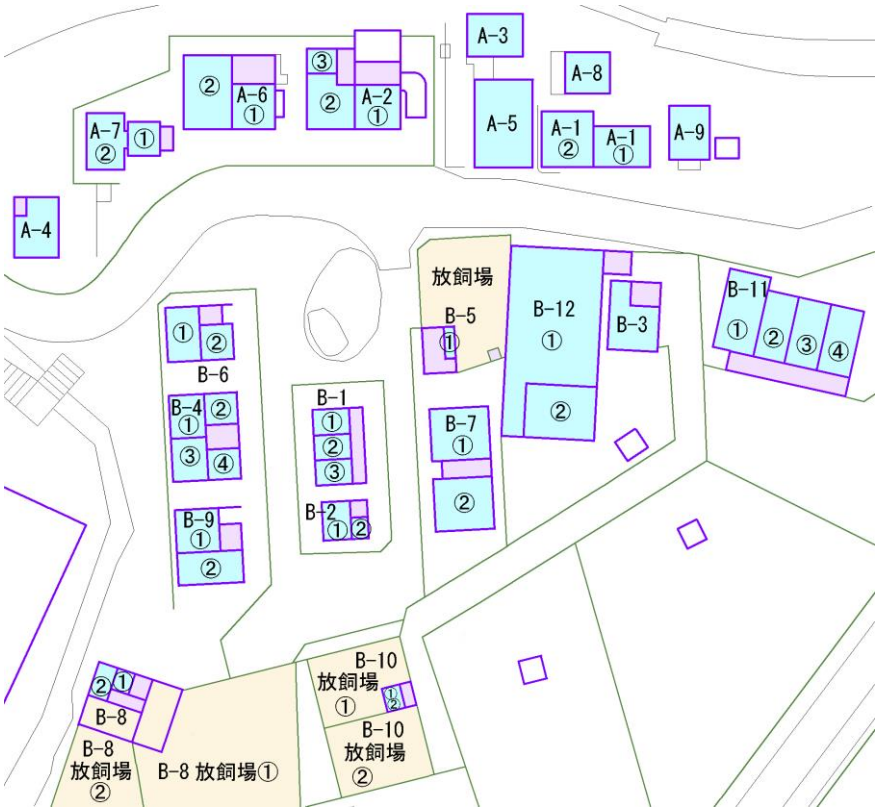








5. 付属園の建物図



Ⅸ　利用案内（平成 21 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
2. 休館日　毎週月曜日、国民の翌日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
   ※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休
3. 交通　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシーで 5 分、歩いて 25 分
   マイカー　長野自動車道豊科 IC から 40 分
   （北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
   ※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）
4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン
   入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能
6. 所在地および連絡先
   〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
   （標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
   TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
   E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
   URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 20 年度　年報
平成 21 年 11 月 25 日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　株式会社　奥村印刷所
〒398-0002 長野県大町市大町 2470
TEL:0261-22-0205/FAX:0261-22-1345

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。